

送付先：ICT夢コンテスト2020事務局 宛 (E-mail: yume-oubo@japet.or.jp)

ICT夢コンテスト 実践事例応募用紙

※この応募フォーマットはホームページよりダウンロードしてください。

類似のコンテストに入賞歴の無い事例が対象です。有無を右欄に記入ください。	無し
--------------------------------------	----

この実践事例は下の要素の何々を含んでいますか。該当する項目の左に ● を記入してください。複数選択可です。

<input type="checkbox"/>	効果的な授業	<input checked="" type="checkbox"/>	児童生徒の資質・能力向上	<input type="checkbox"/>	教員研修	<input type="checkbox"/>	ICT活用指導力向上
<input type="checkbox"/>	校務の情報化	<input checked="" type="checkbox"/>	保護者や地域への情報発信	<input checked="" type="checkbox"/>	ICT環境整備	<input type="checkbox"/>	ICT活用サポート
<input checked="" type="checkbox"/>	ICT活用推進	<input type="checkbox"/>	学校運営・管理	<input type="checkbox"/>	保護者や地域による学校支援	<input type="checkbox"/>	地域での児童生徒学習支援
<input type="checkbox"/>	学校行事	<input type="checkbox"/>	通級指導教室・特別支援学級	<input type="checkbox"/>	その他 ()	<input type="checkbox"/>	

学校又は団体名 (実践時)	西宮市立上ヶ原小学校PTA						
団体種 (校種、NPO等)	PTA						
応募者 <small>氏名漢字、職名、氏名カナ、学校又は団体名(実践時)上記と異なる場合のみ記入</small> ※連名での応募も可	応募者※1	阪本 敬幸	会長	サカモト ノリユキ			
	連名者 (3名まで)	山崎 亜希	副会長	ヤマサキ アキ			
		松尾 蘭	副会長	マツオ ラン			
		梶 麻里	書記	カジ マリ			
学校や団体への所属年数(応募者)	2. 5	年	ICT夢コンテストの今回を含む応募回数(応募者)	1	回目		

実践事例タイトル (30文字以内・サブタイトル無し)	社会変化にも長期休校にも対応！ICTで持続可能なPTAを						
教科もしくは分野	社会教育	教科の単元がわかる場合 (複数可)					
対象者 (学年・他)	PTA 会員 (保護者) ・ 全学年児童						
実践場所 (PC教室、体育館等)	各家庭	実践時期	R1.7~R2.9				
活用したICT機器、教材、環境等	スマートフォン、PC		実践の特長 (先進性、普及性) をどちらか一つ選択		<input checked="" type="checkbox"/>	先進性	
			※該当する項目の左に●を記入			普及性	

アンケートをお願いします。									
コンテスト企画運営の参考にさせていただきます。番号を「番号記入欄」に記入してください。複数記入可です。									
(問) 本コンテストをどのようにお知りになりましたか。									
(回答群) ①案内ポスター ②案内チラシ ③事務局メール ④新聞等のニュース媒体から ⑤前から知っている ⑥教育委員会からの紹介 ⑦上司や友人・所属団体からの紹介 ⑧JAPET&CEC ホームページより									
番号記入欄	⑧								

- ※1：連名の場合、「応募者」は自ら実践し自ら事例を執筆したご本人とし、かつ事務局からの直接の連絡先としてください (実践の際の監修者や上司、自治体・学校等の協力者などを「応募者」とはしないでください)。
- ※2：連絡先住所は、事務局からの郵送物を受け取れる住所をご記述ください。また、E-mail及び電話番号は、事務局から連絡を取らせていただけるものをご記述ください。
- ・1頁目表紙 (応募者情報) のフォーマットの変更は、ご遠慮ください。
- ・応募事例の図や写真データの組み込みは自由です。参照URLは不可です。
- ・表紙記述1頁と実践事例内容記述2頁以内、計3頁以内で纏めてください。それ以上は受理できません。

実践の概要（実践内容を5行以内で簡潔にまとめる）

- ・PTA 役員・委員の負担軽減、PTA へのアクセス容易化、経費削減により、持続可能なPTA とすることを目的として、ワンストップサービスを実現するPTA ホームページを作成するとともに、LINE オープンチャットを利用した連絡・活動参加手続を可能とした。ペーパーレス化が進み、時間的・経済的負担が大幅減少。
- ・LINE オープンチャットの「投票」機能の利用により、保護者が能動的にPTA 活動に参加・協力。
- ・コロナ休校期間中、ZOOM を利用したイベント実施。近隣大学ゼミとも連携し、子供・地域交流の場に。

(1) ICT活用の目的とねらい

i) PTA活動における時間的・経済的負担を減らすことを目的としたICT活用

PTA は、アナログで非効率的な事が多く、役割の「ノルマ」が課されたり、保護者から見て「何をしているかよくわからない」という事も多く、「PTA 役員・委員は大変」と保護者に敬遠されがちである。

共働き世帯の増加、社会意識の変化により、近時、PTA 活動を気軽なものとする事は必須である。また少子化によりPTA の収入減少も見込まれる。このため、役員・委員の負担軽減、PTA へのアクセスの容易化、経費削減を図り、PTA 活動を活発化・持続可能なものとする目的で、ICT の積極的な活用を進めた。

具体的には①ワンストップサービスを実現するHP 作成、②LINE オープンチャットを利用した簡易迅速な連絡・活動参加登録の実現を目指した。各種クラウドサービスも利用したが分量の関係で割愛する。

ii) コロナ休校期間中の子供の交流を目的としたZOOMイベント

令和元年3月～5月のコロナ休校期間中、長引くステイホームの中で、子供達もやることがない・コロナ疲れという状況にあった。これを受けて、子供同士及び子供と地域ボランティアとの交流を図る目的で、6回に渡って、オンライン会議システム・ZOOMを利用したイベントを行なった。

(2) 実践の特徴・工夫

i) PTAの連絡・各種手続におけるICT活用について

ICT 活用にあたり、①完全無料、②利用者の操作容易性、③管理の容易性、という点に留意し、上ヶ原小学校PTA では、以下のサービスを利用することとした（いずれも無料版、初心者にも扱いやすい）。

内容	利用サービス	特徴	解決したい問題等
HP 作成	JIMDO	最低限の編集はスマホアプリで容易。HP 内に外部ページの埋込可能。	PTA は面倒・何するか不明という保護者意識
施設予約フォーム (HP に埋込)	Air RESERVE	予約可能かどうか分かりやすい画面。申込に対する自動返信有。	アナログな施設予約 (学校の黒板記入)
各種申込・報告書提出 フォーム (HP に埋込)	formzu	申込状況を csv 形式でダウンロード可能。申込に対する自動返信有。	申込用紙等を印刷・ 配布・集計する負担
一斉連絡、定期活動(見 守り活動)参加登録	LINE オープン チャット	大多数がLINE を利用。 「投票」機能が使いやすい。	同上。 加えて迅速な情報提供

○HP は、概ね以下のように運用されており、PTA における連絡・手続面をおよそ網羅して掲載している。

- ・最新の告知事項をトップページに掲載。PTA 活動の説明（見守り活動のやり方等）も多々掲載。
- ・紙で配布したおたよりをPDF で掲載。本年度から特に重要なものを除き、原則、紙の配布中止。
- ・HP に埋め込んだ、施設予約やイベント申込・活動報告のフォームから各種申込・報告が可能。
- ・PTA の各種規則や、委員からPTA に提出する申請書書式のダウンロードが可能。
- ・PTA に対する意見提出フォーム（匿名提出可）およびPTA のメールアドレスを掲載。
- ・PTA のGoogle ドライブ内の動画やPDF 等の資料のリンクを貼って、閲覧に供することもある。

○「LINE オープンチャット」は、殆どの保護者がLINE を利用しており取っつきやすい。アドレスを知って

いれば参加可能、誰かと LINE の「友達」となる事は不要で、手軽に登録できる。以下のように運用中。

- ・「お知らせオープンチャット」「見守りオープンチャット」があり参加は任意。
- ・「お知らせオープンチャット」ではイベント参加募集・HP 更新情報等を通知。
- ・「見守りオープンチャット」では「投票」機能を利用し、見守り活動（旗振り活動等）の参加登録を実施。「投票」機能は、リアルタイムで登録日時参加者数を確認できるため、参加者が少ない日を確認して登録する事が可能。



ii) ZOOMイベント

休校期間中、クイズ大会（4/29、約 100 名参加）、法律教室（5/11、約 50 名参加）、子供同士がフリートークできる場（5/13・16、延べ約 40 名参加）を開催した。いずれも LINE オープンチャットで告知し、HP のフォームから申込して頂いた。クイズ大会は、低学年・中学年・高学年の部に分けて開催し、演出（効果音・アバター利用等）も趣向を凝らした。法律教室は、コロナ感染者・医療従事者に対する差別問題が発生していた時期であり、弁護士の保護者を講師として、いじめが違法である事等を説明した。

その後、長年見守り活動ボランティアにご協力頂いている近隣大学のゼミ（関西学院大学教育学部・藤木ゼミ）と共同で、ゼミ学生と子供との交流会（5/22、5/29、6/20、延べ約 70 名参加）を開催した。

(3) 実践の成果

i) PTAの連絡・各種手続における ICT 活用について

- HP は概ねワンストップサービスを提供することができ、LINE オープンチャット利用も開始したことにより、紙による告知に伴う作業（編集・校正・印刷・配布）はほぼ無くなり、告知の所要時間は大幅に短縮（1週間 ⇒ 15分～1時間）。集計も自動で行われる。また、自宅のみで作業可能に。
- 印刷関係費（紙・インク・トナー代）を大幅に節約（年額約 20 万円 ⇒ 約 6 万の見込み）。
- 保護者にも「過去のおたよりを探さなくても、HP ですぐ見られる」「活動がよく分かる」と好評。
- 見守り活動に上記「投票」機能を利用することで、保護者が自主的に「人手不足の日に参加」する事を可能とした。PTA が行っていた参加者募集・割当（当番表作成）・連絡を、個々の保護者に分散した事になる。保護者側としては、都合の良い日を見つけて参加決定する事が可能になったという事になる。紙で参加者募集・当番表作成時と比べ、参加者数・見守り実施日数共に大幅に増加した。

ii) ZOOMイベント

休校中、殆どの PTA は活動休止し、学校も課題を出す程度の活動であったが、当 PTA は ICT を活用するシステムを構築していたためイベント告知・申込が可能で、ZOOM を利用して有意義な活動ができた。

子供達は ZOOM で久々に会う友達に嬉しそうに手を振り、イベント終了後も長時間話し込むなどし、保護者からも感謝の声を多数頂いた。子供の交流のみならず、ゼミ教授と PTA との交流の機会にもなった。交流による情操教育・地域連携の効果に加え、ICT 教育・法的教育効果もあったはずである。

(4) おわりに

現在、当 PTA は役割ノルマを廃止し、完全任意活動で動く PTA に向け改革中であり、これを実現するためには PTA の基本システムも改革することが必要である。少子化、負担の大きな PTA への拒否感、コロナによる制限といった問題を打破し、持続可能な PTA を目指して今後も ICT 活用の可能性を模索したい。